



あなたを必要としている子どもがいます

「いつか」を「いま」に。 いま、里親に!



© NIPPON ANIMATION CO., LTD. "Anne of Green Gables" TM/AGLTA

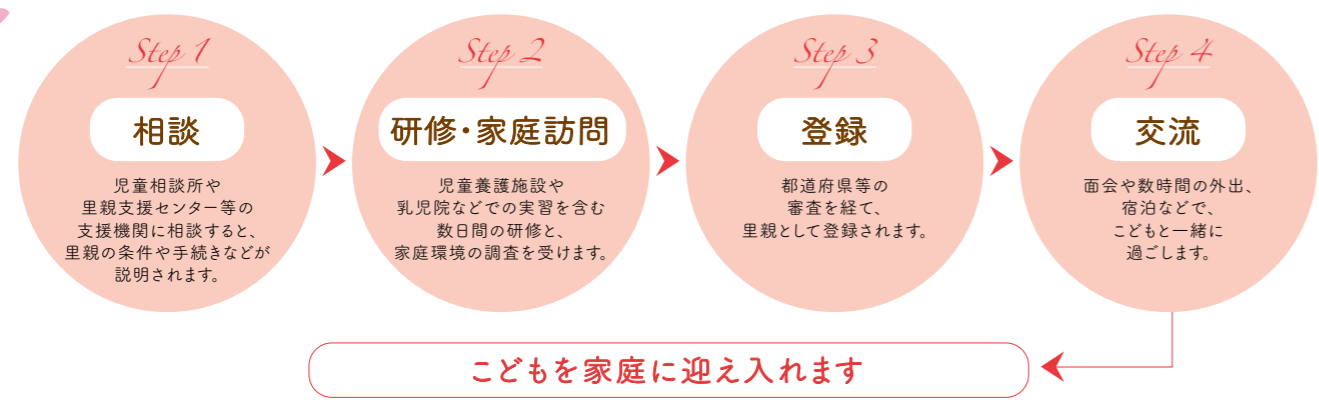
あたたかな家庭を心から願ったアンは、マジュウとマリラに出会い、二人の愛情に包まれながら、自分らしく豊かで幸せな人生を歩みます。

いま、日本には親と離れて暮らす子どもたちが、約4万2千人います。「里親制度」は、そうした子どもを自分の家庭に迎え入れ、必要な生活費や養育に関する相談など、さまざまなサポートを受けながらチームで育てる制度です。子どもの成長には、とんで応援してくれる大人が必要です。子どもたちの力になれるのは、あなたです。



あなたにできること、きっとある。 もっと知りたい、里親のこと

子どもを迎え入れるまでの4ステップ



子どもを家庭に迎え入れます

養育に必要な費用が支給されます

子どもを育てるために必要な生活費、教育費、医療費などが支給されるので、安心して養育できます。

里親手当 1人あたり **9万円/月** + 生活費

乳児 約6万6千円/月 (乳児以外) 約5万7千円/月

※養育里親の場合。 ※その他、教育費や医療費、防災対策費なども支給されます。

里親 Q & A

- Q 特別な資格が必要なの?**
A 特別な資格は必要ありません。所定の研修を受け、子どもの養育が可能な住環境があるなどの要件等が求められます。保護を必要とする子どもに寄り添い、豊かな愛情と正しい理解をもって接することが大切です。
- Q 共働きでも大丈夫?**
A 基本的に問題ありません。共働きの里親がたくさん活動されています。子どもを養育するために、仕事の調整や対応が必要なこともあります。
- Q 実子がいても里親になれる?**
A なれます。実子や家族に里親になることを伝え、理解を得たうえで、新しい家族として迎え入れるのが理想です。実子の年齢や性別を考慮して、子どもの委託が決定されます。

里親制度について知りたい
ウェブサイト 広げよう「里親」の輪
<https://satooyanowa.jp/>



里親になりたい お近くの児童相談所にお問い合わせください。
児童相談所 いちほやくおなやみを
【相談専用ダイヤル】0120-189783



子ども家庭庁
里親制度



全国
里親会



日本
ファミリーホーム
協議会



児童相談所
一覧

里親制度について知りたい
里親制度について知りたい方は二次元コードでウェブサイトへ
～里親制度の疑問に答えています～
ウェブサイト 広げよう「里親」の輪
<https://satooyanowa.jp/>



里親になりたい お近くの児童相談所にお問い合わせください。
児童相談所 いちほやくおなやみを
【相談専用ダイヤル】0120-189783
【インターネット】

里親についてもっと詳しく知りたい人は

こどもまんなか
こども家庭庁

10月は里親月間です



里親 Story

ストーリー



日本には、さまざまな理由により親と暮らすことができない子どもたちが約4万2千人います。子どもたちの心のケアと健やかな成長には、家庭に迎え入れられ、自分が愛されていると実感できることが大切です。子どもが置かれた状況の一つとして同じケースはないからこそ、里親にまつわる物語も十人十色です。

Case 1

「うちの仲間にならない？」 寂しかった心に、里親の言葉が響いた 小賀坂小春さん

生後まもないころから過ごしていた乳児院で、齋藤直巨(なおみ)さん(※以下、なおさん)、竜(りょう)さん夫婦と出会いました。「もし仲間になってもいいなと思ったら教えてね!」。3歳の小春さんは「わたし、仲間になる!」と決めました。

2人の姉も受け入れてくれ、うれしい反面、不安も。「こんなに楽しい家族の中に自分がいてもいいのかな、本当に愛してくれているのかな」

愛情を試すような言動を繰り返し、小学4年生のときに家出をします。「習い事に行くときに持たせてもらった“もしものとき”用のお金を使い果たし、なおさんに叱られたんです。許してもらえたのですが、「本当に許してもらえたのか?」って。姉とのケンカもあり、家出してしまいました」

友達の家を訪ねたところを保護され、「「あんた、どこ行ってたの!」と涙を流して叱るなおさんから、姉たちも心配して探していたと聞き、ものすごく反省しました。家出をきっかけに、自分はこんなに大切にされているんだなと思い、家族を試すような言動も減っていったと思います」

数年前に、実親と面会しました。「実家族は仲も良く、どうして自分は一緒にいられたらなかつたらうとモヤモヤしましたが、「モヤモヤもネガティブな気持ちも全部小春の大事な気持ちだから、そのままがいいんだよ」となおさんたちは受け入れてくれました。家族って血のつながりではないんですね。自分が安心できる場所に信頼できる仲間がいる、それが家族なんだと思います」



こがさか・こはる／2006年生まれ、東京都在住。生まれてすぐ乳児院に預けられ、3歳から里親家庭で育つ。2021年に実親と対面し、実名で活動する許可を得る。現在、里親家庭で暮らす委託児童や実子を支援する一般社団法人グロ・ハッピーが主催する「子ども会議」の子ども委員、ファシリテーターを務める。

Case 2

里親家庭の「実子」から「里親」へ 大切なのはひとりひとりに向き合うこと 元藤 透さん

障害者福祉の仕事に従事している両親のもと、5人きょうだいの末っ子として生まれました。両親はいつも困難な状況の方々を支援していて、家族以外の子どもが家に滞在していることが自然な環境で育ちました。とはいえ、思春期のころには「なぜここまで、体を酷使してまで尽くすのだろう」と反発を覚えることもありました。

考えが大きく変わったのは、ある男の子と出会ってからです。一時保護されていたその子は人を寄せ付けず、うつろな目をしていました。母が抱っこしようとしても、逃げるように後ずさりして……。心の傷を感じさせるその姿に「この子には幸せになって欲しい」と強く感じました。

我が家にやってきたその子に、両親は特別なこと

をしたわけではありません。温かいごはんを一緒に食べ、泣いたら抱っこして温かい言葉を。子どもが意見を言うときは、尊重する。みるみるうちに笑顔が増え、甘えるようになったその姿に「こんなに尊いことはないな」と、里親を志すようになりました。

いまは実子から里親の立場になり、子どもたちと暮らしています。心がけているのは、ひとりひとりの何げない表情や言葉を丁寧に見て向き合い、いま何を感じているのかを知ろうとすることです。いま、里親になることを考えている人のなかには実子がいる人も、将来実子が生まれる人もいます。子どもの気持ちを大切にすることは、実の子だろうと血のつながらない子だろうと、変わらず大事なことでないかと思えます。



もとふじ・とる／1988年生まれ。ファミリーホーム(※)「元藤ホーム」養育者。里親家庭の実子として育つ。2012年に自身も養育里親として登録。
※里親家庭を大きくした事業。里親や乳児院・児童養護施設職員経験者の自宅等で補助者も雇い、より多くの子どもを養育する

Case 4

短い時間でも、子どもにとっては宝物 佐藤浩市さん・亜矢子さん夫妻が続ける 「フレンドホーム」というつながり方 佐藤浩市さん 亜矢子さん

乳児院や児童養護施設の子どもたちを週末や休み期間に預かる「フレンドホーム(東京都の制度の名称)」を、5年以上続けています。児童養護施設の子どもたちとふれあうボランティアをやっていた亜矢子さんが、自室に引きこもりがちの女の子がいると知ったことがきっかけでした。「家庭で過ごすことで、少しでも元気になるもらえたら」

女の子は、なかなか普通の声で話すことができませんでしたが、じっくり向き合い、見守ることにしました。「あいさつもできるようになって。笑顔が見られたときには、喜びを感じましたね」(浩市さん)

料理をしたり、花を生けたり。休日と一緒に過ごした後は、施設へ送り届けます。「お別れるまでの30

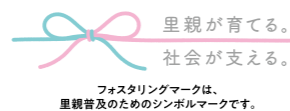
分間、車中での時間を彼女がとても大事に感じていてくれるというのが伝わってきて、僕もその空気が好きで。教えてもらったことがいっぱいあったなあと振り返って」(浩市さん)

「週末だけ、お休みのときだけでも、家庭生活を送ることは子どもの未来に変化を起こすと思います。里親制度をぜひ知ってほしいです」(亜矢子さん)

「責任はあるから、背伸びは必要なんです。でも、ずっと背伸びしていたら相手も疲れてしまいますよね。あるとき背伸びをやめてかかとを落としたら、背伸びしていたときと見える景色が同じだったんです。僕が子どもと関わったからなんだと思っています」(浩市さん)



さとう・こういち／1960年、東京都生まれ。19歳で俳優デビュー。日本アカデミー賞最優秀主演男優賞をはじめ、数々の賞を受賞。
さとう・あやこ／舞台女優として活動後、1993年に結婚。2014年より児童養護施設の子どもを支えるボランティアを始める。



里親が育てる。
社会が支える。

フォスターリングマークは、
里親普及のためのシンボルマークです。

フォスターリングマークについて

里親制度を広めるとともに、里親家庭を社会で支えるための支援の輪が広がることを願って作られたシンボルマークです。

ウェブサイト
公開中!

ウェブサイト 広げよう「里親」の輪
<https://satooyanowa.jp/>

